

日本圧延工業

前期、下期から回復

今期は増収増益見込む

日本圧延工業（本社
滋賀県東近江市、磯
部正信社長）がこのほ
ど発表した2021年
7月期の通期業績は、
売上高が前期比9%増
の29億9000万円、
営業利益は52%減の1
億円で増収減益だっ
た。アルミ地金相場の
上昇で増収となり、利
益は下期に消火器用の
需要が上向いたが上期
に新型コロナウイルスの
減産した影響が残っ
た。

上期は、販売量の半

数以上を占める自動車
分野からの引き合いが
低調に推移し、延納や
キャンセルが相次ぎ、
本社工場でも生産調整
のため一時稼働を止め
た。下期は自動車分野
の回復や、前期に導入
した縦型1600トブレ
スで製造したアルミ
消火器用容器の受注が
拡大し、販売量が前年
同期の水準付近まで持
ち直した。

今期(22年7月期)の
業績予想は前期比10%
増の33億円、営業利益

は50%増の1億5000
0万円を見込む。生産
計画は7%増の650
0トとする。期初早々
にはアルミ地金価格の
上昇を見込んだ駆け込
み需要があり、5Gや
テレワークの進展など
でハードディスク用ハ
ブといったパソコン関
連からの引き合いも旺
盛に推移している。

一方で、シリコンや
マグネシウムといった
添加金属の一連の価格
高騰や、原油価格の上
昇により製造工程で使

用する潤滑油の価格が
上昇している点が懸念
材料となっている。資
材の調達自体に支障は
ないが価格の上昇幅が
大きく、いずれかのタ
イミングでロールマ
シン（加工賃）の値上
げも検討せざるを得な
い（磯部社長）。

設備投資は、前期に
大型プレスや排水処理
装置の導入を済ませて
おり、今期は大型プレ
スの製造ラインの自動
化をはじめ、品質維持
のための更新、作業環

境の整備・改善などを
計画する。

脱炭素の世界的な進
展を受け、アルミ業界
でスクラップの活用が
推進されているが、同
社は2016年に川島
グループの傘下になっ
た直後からスクラップ
の有効活用に取り組ん
でおり、足元のリサイ
クル率（生産量に対す
る投入比率）は30%超
に達する。

製品の販売先からの
リターン材だけでなく、
市中で流通するスク
ラップも積極的に購
買しており、「川島グル
ープが有するスクラッ
プ活用のノウハウを注
ぎ込んでいる。社会機
運がさらに高まれば、
リサイクル材としての
製品競争力も増すと期
待している」（同）。